

# **第1章**

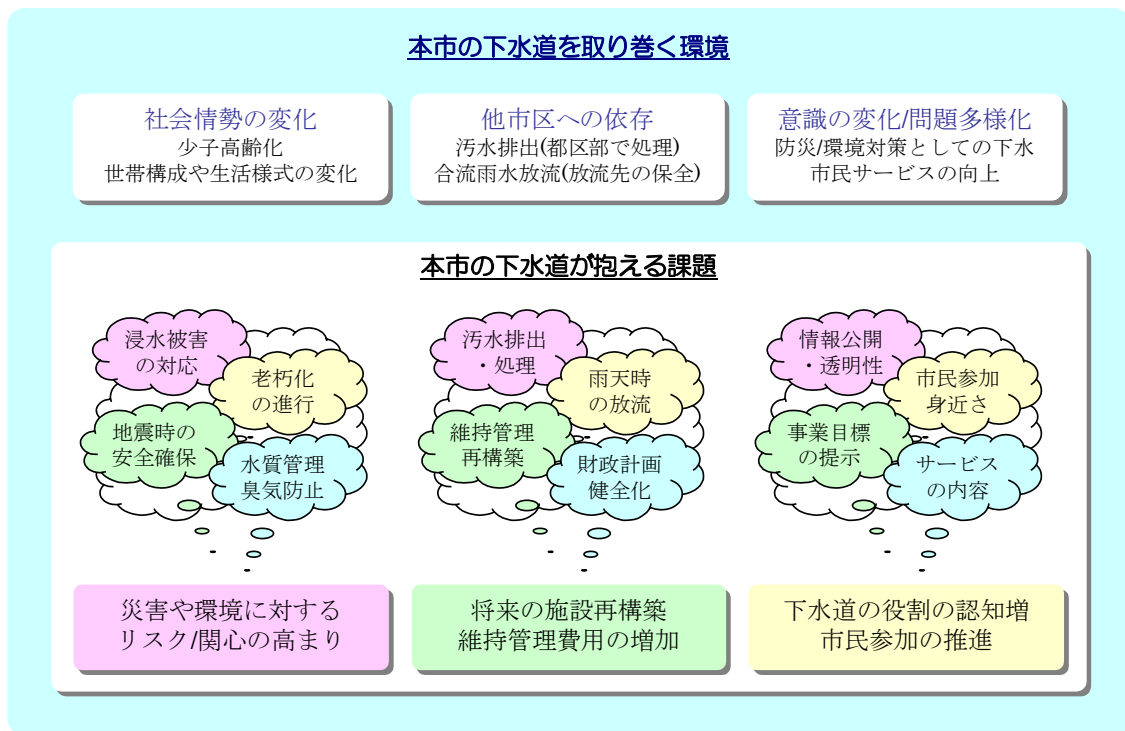
## **下水道の現状と課題**

本市を取り巻く環境は、施設の老朽化、防災や環境に対するリスクの高まり、少子高齢化社会の到来等、大きく変化している。

下水道は、汚水処理の推進による生活環境の改善や、雨水排水施設の整備による浸水の防除等、本市のまちづくりに大きく貢献してきた。

今後、安定した下水道サービスを供給していくため、施設の老朽化対策をはじめとするさまざまな課題への対応が残されている。

**第1章では、「施設整備」、「維持管理」、「持続的な下水道経営」の観点から、下水道の現状と課題を示す。**



# 1. 施設整備の現状と課題

## 1.1 施設整備

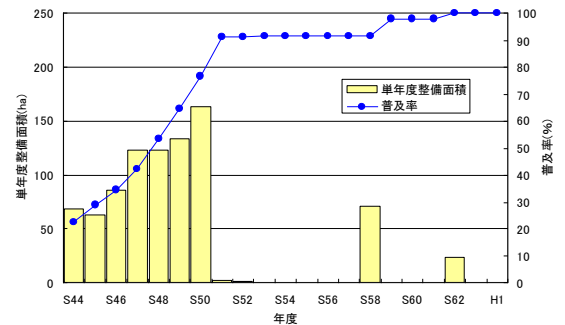
### (1) 汚水処理の現状

本市は、JR 吉祥寺駅周辺を中心に昭和 27 年から公共下水道事業に着手した。

管きよの整備は、市域を 3 つの処理区にわけ、9 割以上を合流式下水道により整備を進め、昭和 62 年には普及率 100%を達成した。

本市は独自の処理場を有しておらず、汚水は東京都の水再生センターで処理されている。

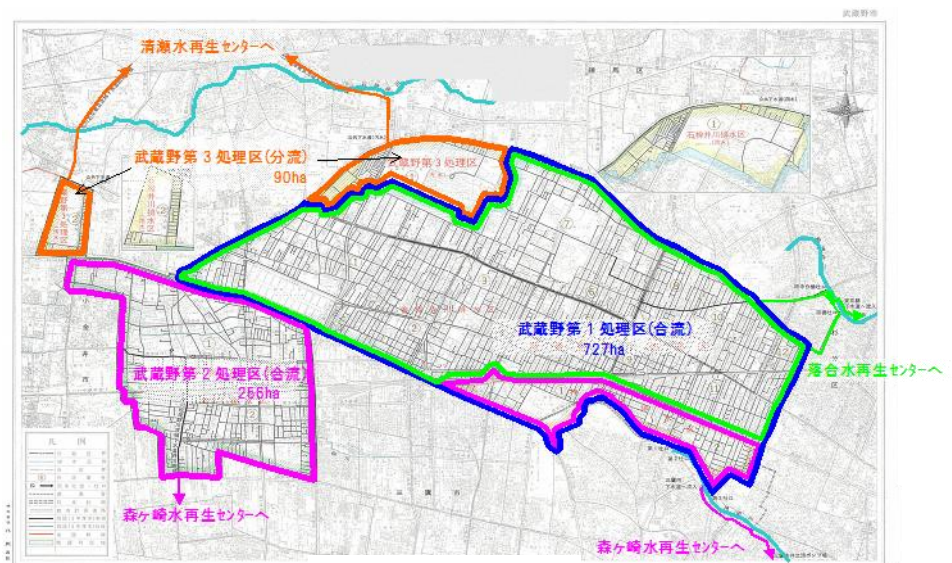
上位計画の「多摩川・荒川等流域別下水道整備総合計画（以降、流総計画）」では、本市で発生した汚水の送水先が定められているものの、現状は処理場施設の整備の遅延等の理由から、暫定的に計画とは異なる処理場に送水しているため、今後都の施設整備に合わせた管きよ等の築造が必要となる。



普及率の推移

汚水処理の現状

処理区名	供用開始	排除方式	面積	送水先
第 1 処理区	S44 年度	合流式	727ha	落合水再生センター(暫定) 森ヶ崎水再生センター
第 2 処理区	S49 年度	合流式	256ha	森ヶ崎水再生センター
第 3 処理区	S59 年度	分流式	90ha	清瀬水再生センター



汚水処理区と送水先

用語:

## (2) 雨水排水の現状

雨水は、市域を4つの排水区にわけて排水しているが、市内には大きな河川がなく、雨水排水は全て市外に依存している。

早くから整備を進めた善福寺川排水区と神田川排水区では、降雨強度40mm/時（1時間当たり40mmの降雨）で整備したが、市街化の進展に伴う安全性向上の必要性から、昭和44年に50mm/時を目標（整備水準）とする第二次下水道計画（幹線計画）を策定した。

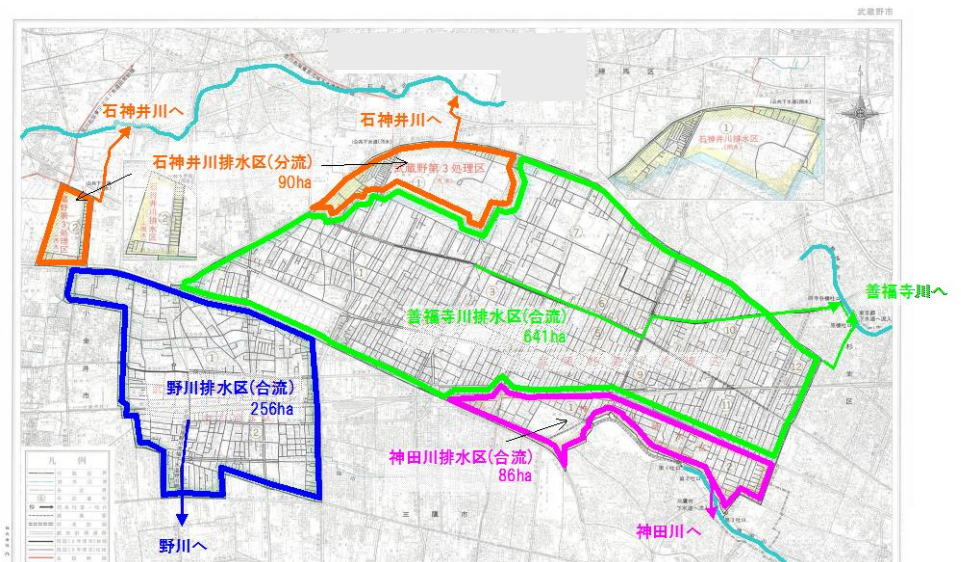
しかしながら、雨水の放流先である善福寺川や神田川の改修が進んでいないため、本市からの放流は制限を受けており、また一部の区間で都市計画道路の整備方針が未決定であるため、本市の整備計画を立てることが困難である。このような中で、第二次下水道計画（幹線計画）はいまだ未整備の状況にある。

また、市全体の流出係数は、都市化の進展に伴う空地・緑地等の雨水浸透域の減少により上昇している。

これらは市内各所での浸水発生の一因となっている。

雨水計画の概要

排水区名	整備水準	放流先
善福寺川排水区	40mm/時→50mm/時(計画)	善福寺川へ放流
神田川排水区	40mm/時→50mm/時(計画)	神田川へ放流
野川排水区	50mm/時	多摩川流域下水道野川第2幹線を経て野川へ放流
石神井川排水区	50mm/時	暫定管を利用し石神井川へ放流



雨水排水区と放流先

用語:

### (3) 今後の課題

#### 1) 汚水送水先の変更

汚水の処理に関しては、下水道の上位計画である流総計画に基づき、汚水の送水先を変更しなければならない状況にあり、送水先を変更するためには、新たな幹線管きよを整備する必要がある。

なお、善福寺川排水区の雨水の排水先については、河川整備計画を踏まえた上で、今後検討を行う。



汚水処理区と送水先

処理区名	排除方式	送水先		対象面積
武蔵野第一処理区 善福寺川排水区	合流式	落合水再生センター	→ 野川水再生センター	266ha
武蔵野第一処理区 善福寺川排水区	合流式		→ 森ヶ崎水再生センター	375ha
武蔵野第一処理区 神田川排水区	合流式	森ヶ崎水再生センター		86ha
武蔵野第二処理区 野川排水区	合流式	森ヶ崎水再生センター	→ 野川水再生センター	256ha
武蔵野第三処理区 石神井川排水区	分流式	清瀬水再生センター		90ha

#### 2) 雨水排除施設の整備水準の向上

しかし、善福寺川排水区及び神田川排水区の下水道施設の整備水準は、40mm/時となっており、目標とする整備水準 50mm/時に対応するために、東京都による河川改修等を見据えつつ第二次下水道計画（幹線計画）を推進する必要がある。